

東京オリンピックを
はさむ昭和36年から41
年まで、私は東京・武
蔵野の自然に恵まれた
住宅地に佇む学生寮
「信陽舎」に寄宿して、
学生生活を送った。

現在の寮は、その後、
武蔵野市運営の高齢者
福祉施設と屋根を一つ
にするユニークな寮と
して新築され、高齢者
との交流を深めながら
生活をともにしてい
る。

信陽舎の歴史は、そ
の端を日露戦争終結の
翌年・明治39年に発す
るから、1世紀余の長
きに亘る。関東大震災
や戦火の被害を受け、
何度か移転や改築を余

儀なくされながらも、

郷土の先人達の熱意と

苦勞に支えられ、明治、

大正、昭和、平成の風

雪と激動の歴史を耐え

抜いてきた。多感な青

春時代をこの舎寮でお

追憶の信陽舎

世話になった者とし
て、少しく歴史を振り
返り、追憶のよすがと

したい。信陽舎創立100

年時に発行された記念

誌『信陽舎100年のあゆ

み』をよりどころとさ

せていただいた。

◎大塚台時代

明治39年～昭和2年

当地出身の故後藤総

一郎編著『飯田・下伊

那新聞雑誌発達史』の

「南信新聞」明治39年

の項に、次のような記

述がある。

「在京学生のための在

京下伊那学生共同宿舍

は11月25日に開舎式、

そして30日には落成式

を迎え、当時の小石川

村繁敏（河竹繁俊）の

御所所、多分大正の初

期と思うが、この舎の

御厄介になつてゐる」

と述懐している。

◎馬橋時代

昭和2年～昭和20年

大塚台の敷地を巡

り、地代の値上げや借

地期間の問題で紛争が

起こり、杉並区馬橋に

敷地を求め

新屋を完成

した。日中

戦争、太平

洋戦争と続く中、出征

した寮生の戦死者もで

た。

テニスコートは菜園

となった。当時の寮生

の話では、犬を殺して

カレーライスの肉にし

たそうである。昭和20

年5月25日深夜の大き

た。

◎武蔵境時代

昭和31年～平成6年

30年に入り、再建の

声が高まり焼跡地を売

却。武蔵境に邸宅を買

い入れて、復興の第一

歩を固めた。一方、今

後を考え、寄付行為を

県下一円に改め、県の

助成を受け得るように

した。これを機に新館

増築が決まり、加納金

三郎理事長が中心とな

って再建後援会が発

足。幾多の困難を乗り

こえて34年10月に落成

した。後に理

事長を務めら

れる吉沢武雄

氏は、苦勞し

た募金のこと

でこんな話を

残している。

ときは始めは大賛成の

ような口吻の某都会議

員宅に何回か足を運

び、終いには堪忍袋の

緒を切つて玄関で大喧

嘩をしてきた。」

※ ※ ※ ※ ※

私は、この武蔵境時

代に、5年間お世話に

なつたが、協同生活の

お陰で「食べ物に好き

嫌いが無い」「人並み

に酒が呑める」そして

何より「和而不同」の

精神を学んだと思つて

いる。

ありがとう。信陽舎。



2005年に発行された記念誌